河原町埋蔵文化財調査報告書　第6集

鳥取県

河原町内遺跡分布調査報告書

1993. 3

河原町教育委員会

鳥取県　河原町内遺跡分布調査報告書

河原町教育委員会

序　　文

この報告書は、平成3年度及び平成4年度に実施した町内に所在する埋蔵文化財の分布調査記録であります。

河原町は、自然に恵まれ、多くの有形・無形の文化遺産が残されております。近年は、社会の進展にともない、各種開発事業が計画・実施されており、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整を図るため、発掘調査を継続的に実施しているところであります。

今回の調査は、国庫補助及び県補助を受けて実施したもので、山手所在遺跡では遺構・遺物とも確認できなかったものの、丸山城跡では平坦面（郭）、堀切及び土塁を、山手森谷上分遺跡では竪穴住居・土壙・ピット（柱穴）・土師器片を検出し、郷土の歴史を解き明かしていくうえで貴重な資料となるものであります。

さらに、分布調査の結果に基づき発掘調査を行い詳しい資料を残したいと考えております。今回の調査は、1986年の郷原遺跡の発掘調査以来の調査であり困難な点もありましたが、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ関係者各位のご指導、ご協力により調査を終え、報告書を刊行することとなりました。ここに深く感謝を申し上げる次第であります。

なお、この報告書は不十分な所も多くありますが、私たちの郷土の理解に役立つと共に今後の研究の一助となれば幸いです。

1993年3月

河原町教育委員会
教育長　蓮　佛　　傳

例　　言

1．本報告書は、平成３年及び平成４年度に国庫補助及び県補助を受けて河原町教育委員会が実施した河原町内遺跡の分布調査の記録である。

2．本分布調査事業は、河原町中央公園整備事業、ごみ消却場用地造成事業、工業団地造成事業に伴い遺跡の範囲と性格を確認し、工事との調整を図るために行った試掘調査である。

3．発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県教育委員会文化課、鳥取埋蔵文化財センターをの指導と協力を得た。

4．本書に使用した方位はすべて磁北を示す。

本書における遺構、遺物等の略語は次のように示す。

Ｔ：トレンチ　ＳＩ：竪穴住居跡　ＳＤ：溝　Ｐ：ピット　ＰＯ：土器

5．報告書は、小泉、中島で協議し、河原町教育委員会が編集、作成した。

6．発掘調査で得られた日誌・写真・遺物等は、河原町教育委員会で保管する。

7．調査関係者は次のとおりである。

調査主体	河原町教育委員会
調査団長	蓮佛　傳（河原町教育委員会教育長）
調査指導	山桝雅美（鳥取県埋蔵文化財センター）
調査員	中島弘隆（河原町教育委員会）
事務局	小谷和章（河原町教育委員会教育課長）
	小泉悦則（河原町教育委員会教育課長補佐）
調査協力	八頭東部環境施設組合
	鳥取県埋蔵文化財センター

本　文　目　次

Ⅰ　位置と環境 …… 1

Ⅱ　調査に至る経過 …… 2

Ⅲ　調査の概要 …… 2

1．丸山城跡 …… 2

(1)　概　　略 …… 2

(2)　トレンチ調査状況 …… 2

(3)　ま　と　め …… 6

2．山手森谷十分遺跡 …… 12

(1)　概　　略 …… 12

(2)　トレンチ調査状況 …… 12

(3)　ま　と　め …… 16

3．山手所在遺跡 …… 22

(1)　概　　略 …… 22

(2)　トレンチ調査状況 …… 22

(3)　ま　と　め …… 23

挿　図　目　次

挿図1　丸山城跡・山手森谷上分遺跡・山手所在遺跡周辺遺跡位置図… 1
挿図2　丸山城跡トレンチ配置図 … 3～4
挿図3　T－2 …… 8～9
挿図4　T－16 …… 8～9
挿図5　T－5 …… 10～11
挿図6　T－13 …… 10～11
挿図7　山手森谷上分遺跡トレンチ配置図…14～15
挿図8　T－2 …… 18～19
挿図9　T－4 …… 18～19
挿図10　T－7 …… 18～19
挿図11　T－10 …… 20～21
挿図12　T－13 …… 20～21
挿図13　T－19 …… 20～21
挿図14　山手所在遺跡トレンチ配置図… 24～25
挿図15　T－8 …… 27～28
挿図16　T－9 …… 27～28
挿図17　T－3 …… 27～28
挿図18　T－4 …… 27～28

図　版　目　次

図版Ⅰ　丸山城跡全景
　　丸山城跡周辺風景
図版Ⅱ　T－2
　　T－2　土層
　　T－5
図版Ⅲ　T－7
　　T－9
　　T－17
図版Ⅳ　山手森谷上分遺跡全景
　　ごみ焼却場周辺風景
図版Ⅴ　T－2
　　T－4
　　T－14
図版Ⅵ　T－7
　　T－17
　　出土遺物
図版Ⅶ　山手所在遺跡全景
　　T－4
　　T－7

表　目　次

表1　丸山城跡トレンチ一覧表 …… 7
表2　山手森谷上分遺跡トレンチ一覧表 …… 17
表3　山手所在遺跡トレンチ一覧表 …… 26

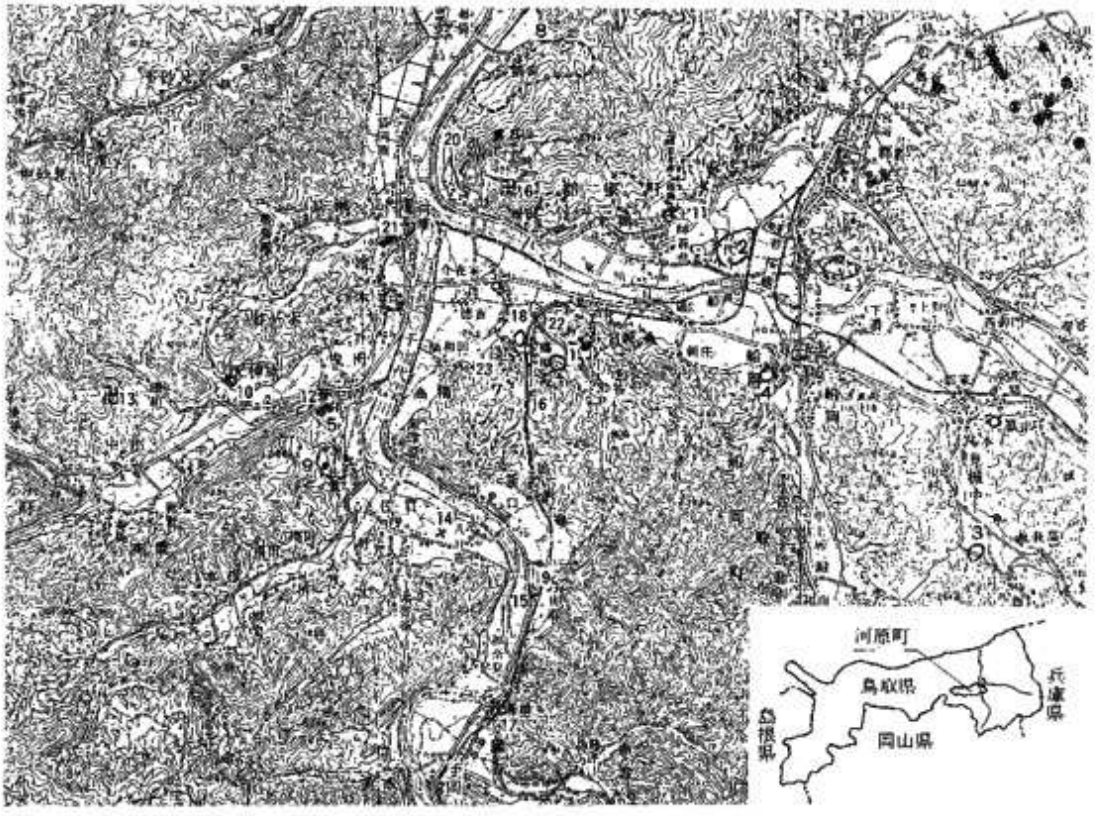
Ⅰ　位置と環境

丸山城跡は、鳥取県八頭郡河原町大字渡一木・谷一木に所在し、千代川支流の合流地点の左岸、河原部落の町並みを望む標高103mの丸山に位置している。

山手森谷上分遺跡は、鳥取県八頭郡河原町大字山手に所在し、船岡町・郡家町に隣接する丘陵地で三谷部落の北側に位置している。

山手所在遺跡は、鳥取県八頭郡河原町大字山手に所在し、千代川の右岸、福和田部落の東側に位置している。

丸山城跡は、古くから文献において存在が確認されており、山手森谷上分遺跡・山手所在遺跡の周辺は、過去に実施された踏査等で遺跡の存在が確認されている場所である。



挿図1　丸山城跡・山手森谷上分遺跡・山手所在遺跡周辺遺跡位置図

凡　例

- × 遺物出土地
- ◯ 散布地・集落跡
- ▲ 銅鐸出土地
- 古墳群
- 前方後円墳
- ● 円　墳
- ⊗ 窯　跡

1. 郷原遺跡
2. 万代寺遺跡
3. 牧野遺跡
4. 丸山遺跡
5. 獄古墳
6. 郷原古墳群
7. 山手古墳群
8. 稲常古墳群
9. 大平古墳
10. 天神原古窯跡群
11. 土師百井廃寺跡
12. 式内社売沼神社
13. 羽黒山妙玄寺跡
14. 瓦経出土地
15. 銅鉦出土地
16. 最勝寺
17. 大安興寺
18. 前田遺跡
19. 下中溝遺跡
20. 片山遺跡
21. 丸山城跡
22. 山手森谷上分遺跡
23. 山手所在遺跡

Ⅱ　調査に至る経過

丸山城は、平成４年度に調査予定であったが「河原町中央公園整備事業」の実施にあたり平成３年度に調査を行ったものである。

山手森谷上分遺跡は、平成４年度に八頭東部環境施設組合より協議を受け、「ごみ焼却場用地造成事業」の実施にあたり調査をおこなったのもので、踏査の結果土器片が発見され、遺跡の存在が推定された。

山手所在遺跡は、計画中の「河原町工業団地造成事業」により調査をおこなった。用地取得の関係上平成３年度と平成４年度に調査を行ったものである。

Ⅲ　調査の概要

１．丸山城跡

(1)　概　　略

丸山城跡は、平坦面（郭）の範囲を確認するためトレンチ（テストピット）を17本設定した。また、堀切の確認をするため、２本のトレンチを設定した。試掘面積の合計は、約201㎡である。

掘進んだ結果、郭（曲輪）と思われる平坦面（削平地）と堀切（竪堀）２条、水堀（濠）１条及び土塁を確認した。出土遺物は、備前焼の擂鉢の破片を１点表土から検出した。

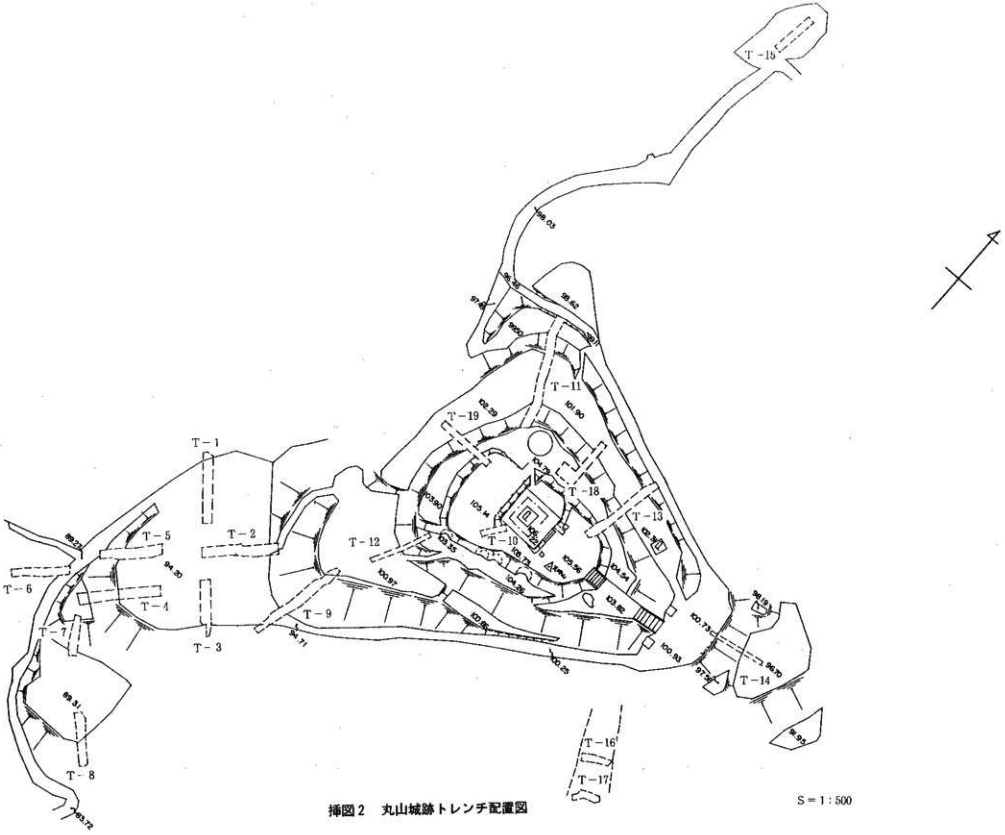
(2)　トレンチ調査状況

Ｔ－１　最頂部の高まりから南側４段目に降った平坦部の中央部から西側肩部にかけて設定した。遺構は平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

Ｔ－２　最頂部の高まりから南側３段目に降った平坦部の南側傾斜面から４段目の平坦部にかけて設定した。遺構は、平坦面と断面逆台形状の水堀（濠）と思われる堀切と土塁を検出した。遺物は、出土しなかったが、底面から列条の石を数個検出した。

Ｔ－３　最頂部の高まりから南側４段目に降った平坦部の中央部から西側肩部にかけて設定した。遺構は平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

Ｔ－４　最頂部の高まりから南側４段目に降った平坦部の南側から５段目の平坦部にかけて（傾斜面を含む）設定した。遺構は平坦面と肩部（傾斜面）に盛土形成が確認された。遺物は出土しなかったが、平坦面でピットを検出した。



挿図２　丸山城跡トレンチ配置図

T－5　T－4と平行するように南北に設定した。遺構は平坦面と肩部（傾斜面）に盛土形成が確認された。遺物は出土しなかった。

T－6　T－5を延長するかたちで南北に設定した。
遺構、遺物とも検出されなかった。

T－7　最頂部の高まりから南側5段目に降った平坦部の東側からさらに南東側に1段降った平坦部に至る傾斜面にかけて東西に設定した。遺構は平坦面を検出したが遺物は出土しなかった。

T－8　最頂部の高まりから南側5段目に降った平坦部からさらに南東側に1段降った平坦部の肩部（東側）から傾斜面にかけて設定した。遺構は平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

T－9　最頂部の高まりから3段目に降った平坦部の南側肩部から4段目に降った東側平坦部に至る傾斜面に設定した。遺構は、平坦面を検出したが、上部平坦面は紫色岩質土で、下部平坦面は赤色粘質土であった。遺物は出土しなかった。

T－10　最頂部の南側平坦部から降った1段目の平坦部に至る傾斜面に設定した。遺構は平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

T－11　最頂部の西側平坦部から降った2段目、3段目及び4段目に至る平坦部と傾斜面に設定した。遺構は平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。地山に達する深さは浅く、岩混じりの土層でかなり削平されていた。

T－12　最頂部の南側から降った2段目の平坦部から3段目の平坦部にかけて設定した。遺構は、帯郭と思われる平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

T－13　最頂部の北側から降った1段目の平坦部から2段目及び3段目に至るところ（平坦部と傾斜面）に設定した。遺構は、帯郭と思われる平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

T－14　最頂部の北東側から降った3段目の平坦部から4段目の平坦部にかけて（平坦部と傾斜面）に設定した。遺構は、平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。傾斜面は急で段差が大きく、断層は岩質土で数多くの石が混じり、相当に削平されていた。

T－15　最頂部の北西側から降った5段目の平坦部に設定した。遺構は、曲郭であると思われる平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

T－16・17　最頂部の東側に位置する溝状の窪みに設定した。遺構は堀切と思われる変形したU字状の竪堀2条とピットを検出した。遺物は出土しなかった。

T－18　最頂部の北側から降った2段目の平坦部から3段目の平坦部にかけて設定した。遺構は帯郭と思われる平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

T－19　最頂部の西側から降った1段目の平坦部から2段目及び3段目に至るところ（平坦部と傾斜地）に設定した。遺構は帯郭と思われる平坦面を検出したが、遺物は出土しなかった。

(3)　ま　と　め

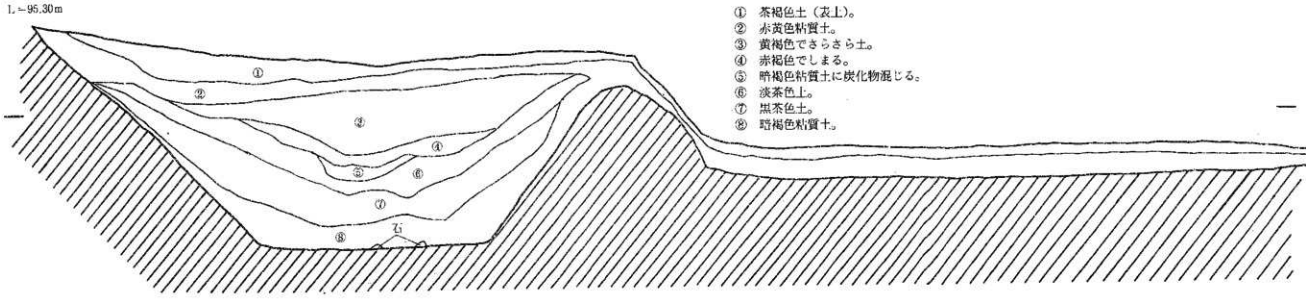
今回の分布調査では、郭跡と思われる平坦面、削平地や帯郭・堀切・土塁を確認したが、郭の平坦面からはピット、土壙は検出出来なかった。

また、遺物については備前焼の摺鉢の破片を1点検出したが、これにより中世の城郭であることが窺える。

丸山城跡の郭配置などについては、全面発掘調査により明らかになるであろうが、立地条件や位置的なものをみると、ある時期に居住あるいは、防御用の砦として役割を果していたことには違いがないであろう。

トレンチ番号	遺　　構	遺　物	規　　模 幅×長さ（m）
T－1	平坦面		1.4×10.3
T－2	平坦面、堀切、土塁	なし	1.6×11.2
T－3	平坦面	なし	1.6× 8.2
T－4	平坦面、ピット	なし	1.5×12.1
T－5	平坦面	なし	1.3× 9.0
T－6	なし	なし	1.1× 8.8
T－7	平坦面	なし	0.9× 6.0
T－8	平坦面	なし	1.3× 8.0
T－9	削平地	なし	1.1×15.0
T－10	削平地	なし	1.0× 3.9
T－11	削平地、帯郭	なし	1.5×17.1
T－12	削平地、帯郭	なし	0.7× 9.4
T－13	削平地、帯郭	なし	1.0×12.7
T－14	削平地	なし	0.5× 8.7
T－15	平坦面	なし	1.1× 6.5
T－16	堀切、ピット	なし	1.1× 4.4
T－17	堀切	なし	1.0× 4.0
T－18	削平地、帯郭	なし	1.0× 7.3
T－19	削平地、帯郭	なし	0.8× 9.2

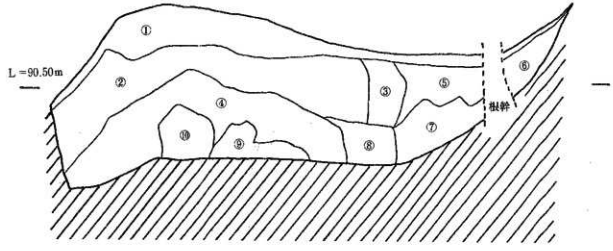
表1　丸山城跡トレンチ一覧表



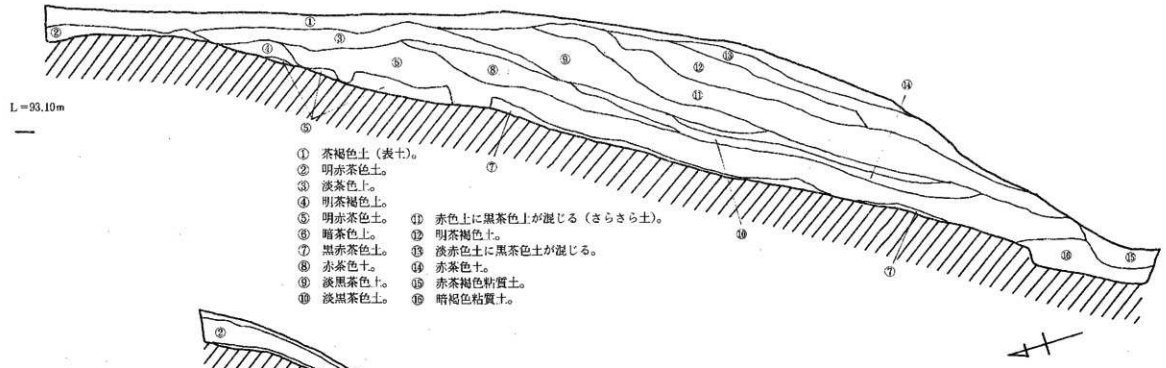
① 茶褐色土（表土）。
② 赤黄色粘質土。
③ 黄褐色でさらさら土。
④ 赤褐色でしまる。
⑤ 暗褐色粘質土に炭化物混じる。
⑥ 淡茶色土。
⑦ 黒茶色土。
⑧ 暗褐色粘質土。

挿図3　T－2　0　1m

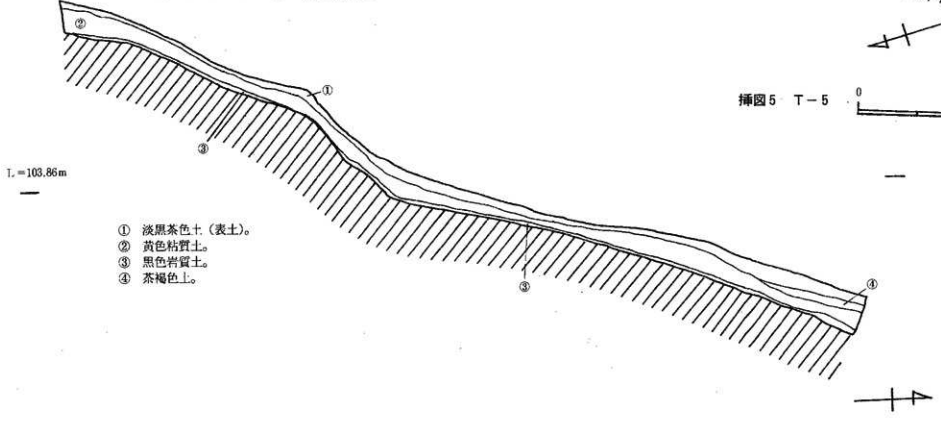
① 表土。
② 明褐色土。
③ 淡黒色土。
④ 青茶色土。
⑤ 明褐色でさらさら土。
⑥ 黄色土。
⑦ 暗褐色土。
⑧ 黒色土。
⑨ 明茶色土。
⑩ 青岩質土。



挿図4　T－16　0　1m



挿図5　T－5　0　1m



挿図6　T－13　0　1m

2．山手森谷上分遺跡

(1) 概　　略

八頭東部環境施設組合が実施する「ごみ焼却場用地造成事業」の計画面積は7,600㎡であり、その一部に土師器・須恵器の破片が散布している区域が含まれている。トレンチは、標高80mから90mの丘陵地に16本設定した。掘進んだ結果、T－16に竪穴住居跡と思われる土壙と土師器片を確認したのでさらに遺跡の分布をより正確にするため、区域の西側に3本のトレンチを追加設定した。調査面積は、合計19本のトレンチで約268㎡である。

T－12、T－16から竪穴住居跡と思われる土壙及びT－12、T－13、T－15からピット（柱穴）を確認した。

(2) トレンチ調査状況

T－1　調査区域（以下「区域」と呼ぶ）の最北端で、古墳のマウンドと思われる位置にT－2と直交するように設定した。表土下0.25mの深さで地山面に達したが、遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－2　区域の最北端に設定したT－1と直交するように設定した。トレンチの南側は深さ0.50mに堆積された4層の土層であったが、T－1と同様に遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－3　区域の東端で谷間に接した位置にT－2を延長したかたちで設定した。表土下0.60mの深さで赤褐色粘質土の地山に達したが、礫を多く含んだ岩質の5層のトレンチである。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－4　T－3を延長した位置で、斜面に設定した。表土下0.80mに達するトレンチで、5層からなる複雑な土層を呈していた。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－5　区域の最東端で、丘陵の最頂部に設定した。小石の混じった粘質の土層で、表土下1.00mを測る。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－6　見晴らしのよい小高い台地に設定した。かなり削平されているが、表土下1.00mでピット（柱穴）を検出した。遺物は出土しなかった。

T－7　区域南東側の杉林に接した位置に設定した。表土下0.20mと浅い2層の土層であるが、ピット（柱穴）を数個検出した。遺物は出土しなかった。

T－8　区域南側中央寄りの畑地にT－7と直交するような形で設定した。礫を多少含む2層で、表土下1.15mを測る。遺構はピット（柱穴）を検出したが、遺物は出土しなかった。

T－9　T－7と同様に杉林に接する南側の雑草地（以前は畑地）に設定した。3層

からなる土層で、表土下0.23mを測る。遺構は、ピット（柱穴）を数個検出したが、遺物は出土しなかった。

T－10　区域最南端の雑木林に設定した。表土下0.18mを測る。表土は、耕作による攪乱層で、乾燥性の強い土層である。遺構は、土壙1基とピット（柱穴）を検出した。遺物は出土しなかった。

T－11　区域最南端の畑地に設定した。表土下0.20mと浅く、耕作による攪乱で、淡黄褐色土の単層であった。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－12　遺物散布密度の高い、区域南西側の畑地に設定した。多量の土器片を含む土層で、表土下0.30mを測る。遺構は、平面が丸みを帯びた菱形（部分検出のため不明確）で土壙（竪穴住居跡か）と思われる暗褐色土の落込みとピット（柱穴）数個を検出した。遺物は、土師器が多数出土したが、いずれも小片である。

T－13　T－12と同様に遺物散布が確認された、区域南西側の畑地にT－12と直交するようなかたちで設定した。表土は、耕作畑であるため相当攪乱を受けている。0.24mの深さで明褐色粘質土の地山を確認した。遺構は、トレンチ南端で淡黒色土のピットを検出した。遺物は、古墳時代の土師器片数点が出土した。

T－14　区域中央部からやや南西側の畑地に設定した。表土下0.28mで明褐色土の地山に達した。遺構は、ピット（柱穴）を検出したが、遺物は出土しなかった。

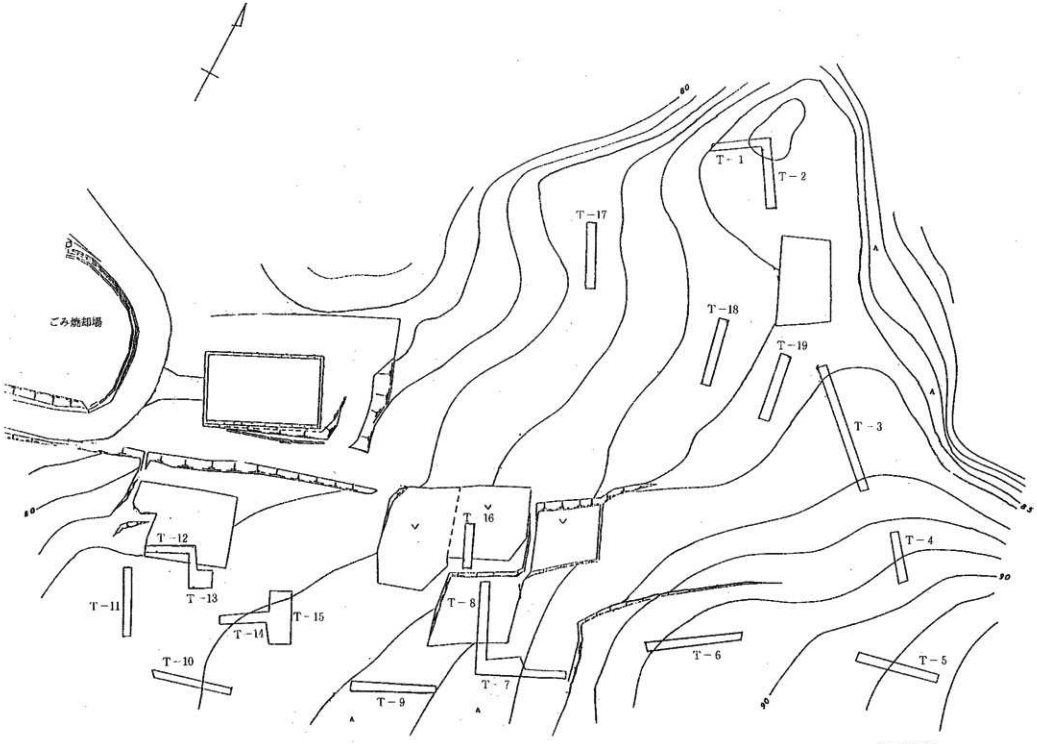
T－15　T－14と垂直になるようなかたち（T字）で、地域中央部やや南西側の畑地に設定した。T－14と全く同じ土層であるが、トレンチ中央部を中心に数多くのピット（柱穴）を検出した。掘立柱建物であろうと思われる。遺物は出土しなかった。

T－16　区域最中央部の雑草地（以前水田）に設定した。区域内に延びる耕作道に接しているため、表土は相当削平されている。土層も浅く、特に黄色土を含む淡黒色土で不明瞭な土質である。遺構は、平面形が丸みを帯びた土壙（竪穴住居か）を1基検出したが、遺物は出土しなかった。

T－17　区域北西側の谷間に設定した。表土下0.10mと非常に浅く、遺構は検出しなかった。土層も削平されて不明確な単層であった。遺物は出土しなかった。

T－18　区域中央部やや北側の雑草地に設定した。表土下0.15mを測る。浅い土層だが、ピット（柱穴）を検出した。遺物は、土師器の小片が多数出土した。

T－19　区域中央部北東側でT－18と平行するようなかたちで設定した。浅い土層で黄色土を含んだ淡い黒色土が特徴である。地山が不明で、遺構を検出するには至らなかった。遺物は、多量の古墳時代と思われる土師器の小片が殆どであった。



S＝1：500

挿図７　山手森谷上分遺跡トレンチ配置図

(3) ま と め

今回の分布調査では、周囲の古墳群との関連から当初古墳の存在をつかむためのものであったが、実際には古墳の検出はなく、竪穴住居跡、ピット（柱穴）、土壙等から集落遺跡と推測される。遺構について考えてみると、全面発掘していないことと、地山と遺構の見極めが不明確なため規模、数、時代等を特定することは分布調査では困難であった。

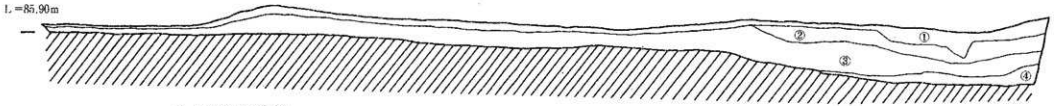
しかし、遺跡の存在と範囲については、ほぼ正確にとらえることができた。出土遺物について考えてみると、古墳時代の土師器が殆どであり、また、すべて小片であるため、器種、法量、成形、調整等は不明確であった。

いずれにしても、今後全面発掘による遺構の検出、掘り下げによって初めてこの遺跡の性格、時期などが明らかになるものと思われる。

また、今回の調査では資料的にも限られたものであったが、本調査に活用すれば当遺跡の周辺に存在している郷原遺跡、前田遺跡等との関連性の詳細が期待できるとともに、山手、郷原周辺の歴史がいっそう明らかになるであろう。

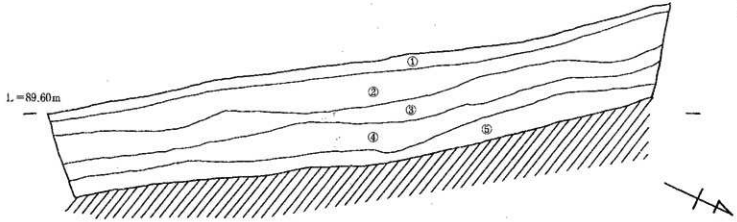
トレンチ番号	遺　　構	遺　物	規　　模 幅×長さ（m）
T－1	なし	なし	1.0× 9.0
T－2	なし	なし	1.5×10.1
T－3	なし	なし	1.3×19.0
T－4	なし	なし	1.3× 7.5
T－5	なし	なし	1.3×12.3
T－6	なし	なし	1.2×14.1
T－7	ピット（柱穴）	なし	1.1×13.1
T－8	ピット（柱穴）	なし	1.4×13.2
T－9	ピット（柱穴）	なし	1.2×12.6
T－10	ピット（柱穴）、土壙	なし	1.0×11.4
T－11	なし	なし	1.2× 9.8
T－12	ピット（柱穴）	土師器片	1.1× 9.5
T－13	ピット（柱穴）	土師器片	1.2× 6.2
T－14	ピット（柱穴）	なし	1.3×10.5
T－15	ピット（柱穴）、掘立柱建物	なし	3.3× 7.5
T－16	竪穴住居	なし	1.2× 6.5
T－17	なし	なし	1.3× 9.6
T－18	ピット（柱穴）	土師器片	1.4×10.0
T－19	なし	土師器片	1.5× 9.9

表2　山手森谷上分遺跡トレンチ一覧表



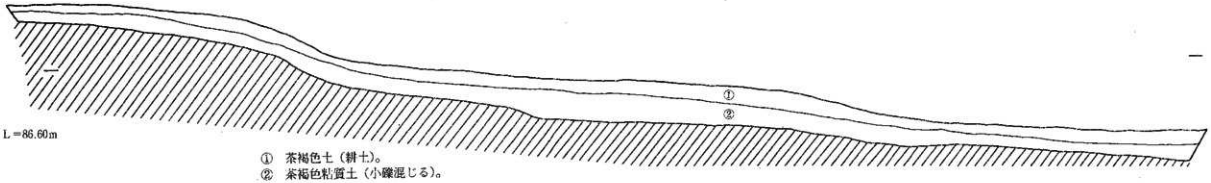
① 黒茶色土（表土）。
② 明黄茶色土。
③ 淡茶色土。
④ 明茶色土。

挿図8　T－2



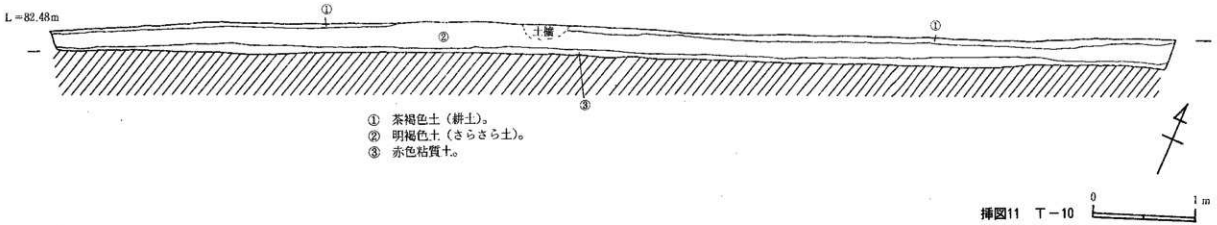
① 茶褐色土（耕土）。
② 明茶褐色土。
③ 赤茶色土。
④ 黒茶色土。
⑤ 茶色粘質土。
} 礫混じる

挿図9　T－4



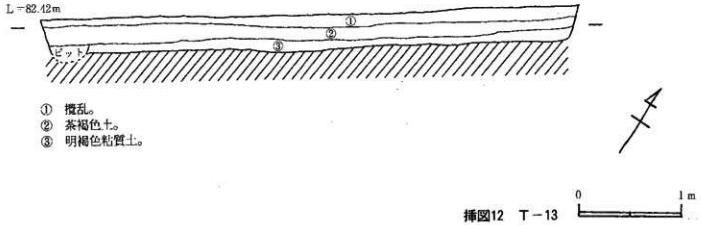
① 茶褐色土（耕土）。
② 茶褐色粘質土（小礫混じる）。

挿図10　T－7



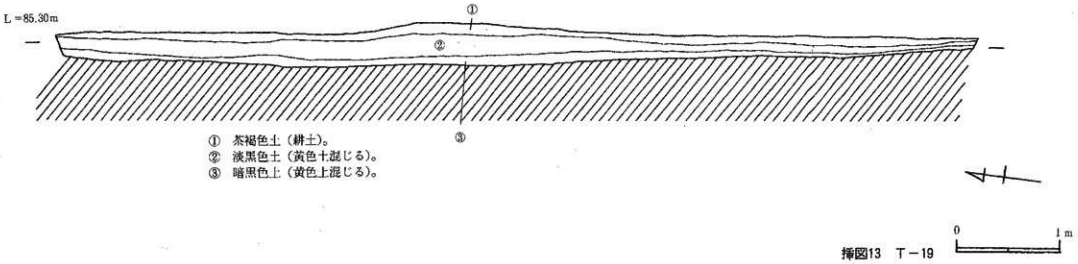
① 茶褐色土（耕土）。
② 明褐色土（さらさら土）。
③ 赤色粘質土。

挿図11　T－10



① 攪乱。
② 茶褐色土。
③ 明褐色粘質土。

挿図12　T－13



① 茶褐色土（耕土）。
② 淡黒色土（黄色土混じる）。
③ 暗黒色土（黄色土混じる）。

挿図13　T－19

3．山手所在遺跡

(1) 概　　略

河原町工業団地造成事業に伴い実施した山手所在遺跡分布調査は、周辺に山手古墳群、郷原古墳群が点在し、また、集落遺跡である前田遺跡、郷原遺跡などが所在する町内でも有数の遺跡の宝庫として知られている地域の調査である。

今回の分布調査では、予め踏査により決定したポイント（墳丘状のマウンドと平坦部）にトレンチ（テストピット）を12本設定し、実施したものである。なお、造成工事面積は10.6haで分布調査面積は120㎡である。

(2) トレンチ調査状況

T－1　調査区域の北側尾根の陵線上に設定した。現況は笹が密集し墳丘と思われるマウンドの判別が困難であった。表土下0.40mで赤褐色粘質土の地山に達したが、遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－2　T－1の南側に位置する陵線に設定した。ここも笹が繁り、やや平坦でマウンドは不明確であった。T－1と全く同じ土層で、表土下0.50mで地山に達した。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－3　総合町民運動場西側の急斜面を登った位置（平坦部）に設定した。表土下0.40mで地山に達したが、岩礫を多少含んだ土層である。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－4　総合町民運動場南側の墳丘と思われるマウンドに設定した。現況は松林で、表土下0.45mで地山に達した。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－5　T－4を設定したマウンドの東側下方斜面に設定した。堆積状況は、3層からなる土層である。表土下0.45mで地山に達した。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－6　T－4を設定したマウンドの南側下方斜面に設定した。表土下0.35mで地山に達し、遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－7　調査区域内で最頂部（106.8m）のマウンドに設定した。表土下0.40mで赤褐色粘質土の地山が確認された。少し自然削平を受けているように思われる。遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－8　T－7に直交するようなかたちで頂部から下方（低部）にかけての傾斜面に設定した。表土下0.20mを測る。浅いトレンチで、遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－9　最頂部のトレンチから西側に下った陵線上の平坦に近いマウンドの肩部から東側下方の低部にかけての急斜面に設定した。表土下0.35mと浅く、遺構、遺

物ともに検出されなかった。

T－10　調査区域の最西端の平坦部に設定した。表土下0.40mを測る。深いトレンチで、埋土状況が窺える。遺構、遺物ともに検出されなかった。

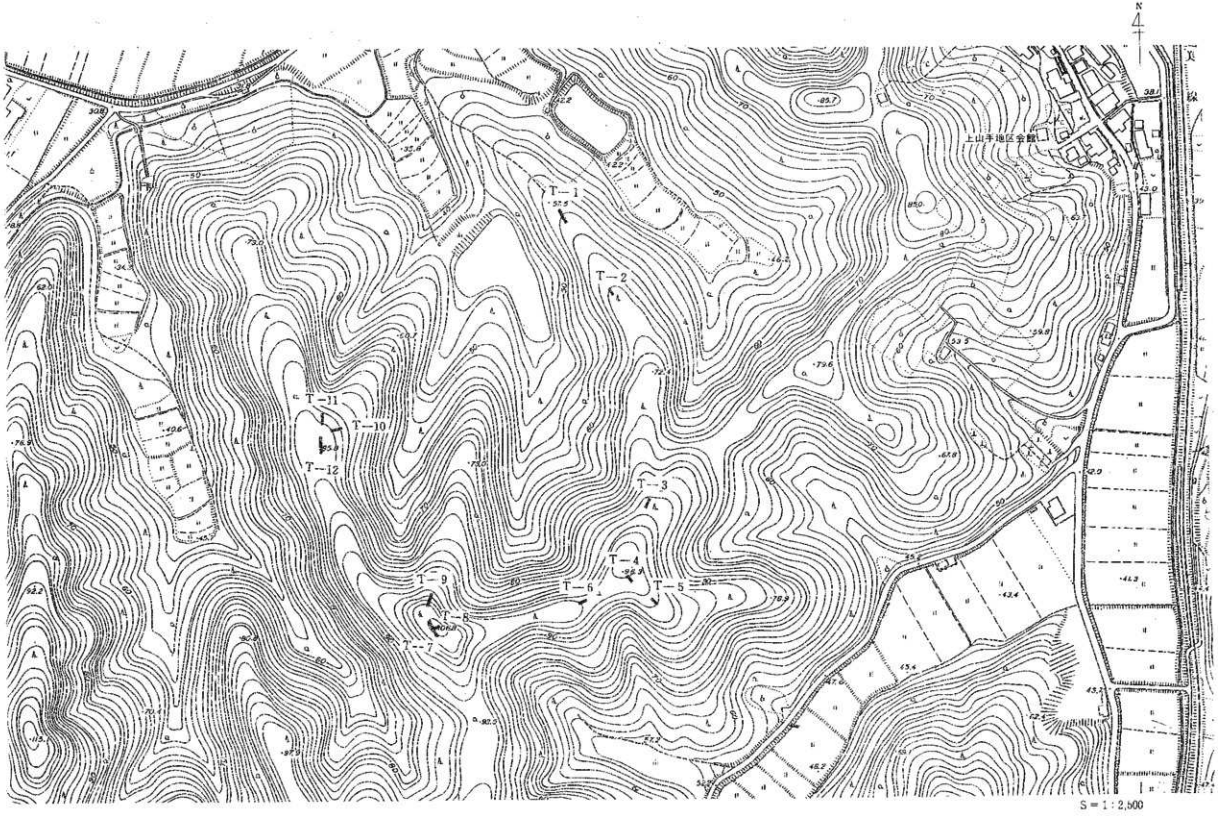
T－11　T－10に直交（「L」字状）するようなかたちで設定した。表土下0.40mで地山に達した。T－10と同様な埋土状況であり、遺構、遺物ともに検出されなかった。

T－12　T－10に直交し、T－11を延長したようなかたちで設定した。表土下1.20mを測り、T－10、T－11と同様に埋土された状況が確認された。遺構、遺物ともに検出されなかった。

(3)　ま　と　め

山手所在遺跡の調査結果は、遺構、遺物ともに検出されなかった。今回実施した分布調査では古墳、集落跡等の存在を期して12本に及ぶトレンチを設定したにもかかわらず、遺構、遺物は確認されなかった。

調査区域内における過去の資料情報等を収集すると、当然の結果であるようにも考えられる。しかしながら、場所によってかなり削平されたり、大量の埋土状況であることから遺構の見落としなども若干懸念される。いずれにしても、調査区域周辺の歴史的産物や文化的遺産などからみても、今後造成工事に着手した後も注目していく必要があるだろう。



挿図14　山手所在遺跡トレンチ配置図

トレンチ番号	遺　　構	遺　物	規　　模 幅×長さ（m）
T－1	なし	なし	1.5× 6.0
T－2	なし	なし	1.4× 5.5
T－3	なし	なし	1.3× 6.0
T－4	なし	なし	1.2× 7.0
T－5	なし	なし	1.3× 7.0
T－6	なし	なし	1.6× 5.9
T－7	なし	なし	1.2×12.8
T－8	なし	なし	1.2× 4.5
T－9	なし	なし	1.2× 9.2
T－10	なし	なし	1.3× 8.3
T－11	なし	なし	1.5× 7.0
T－12	なし	なし	1.3×12.0

表3　山手所在遺跡トレンチ一覧表

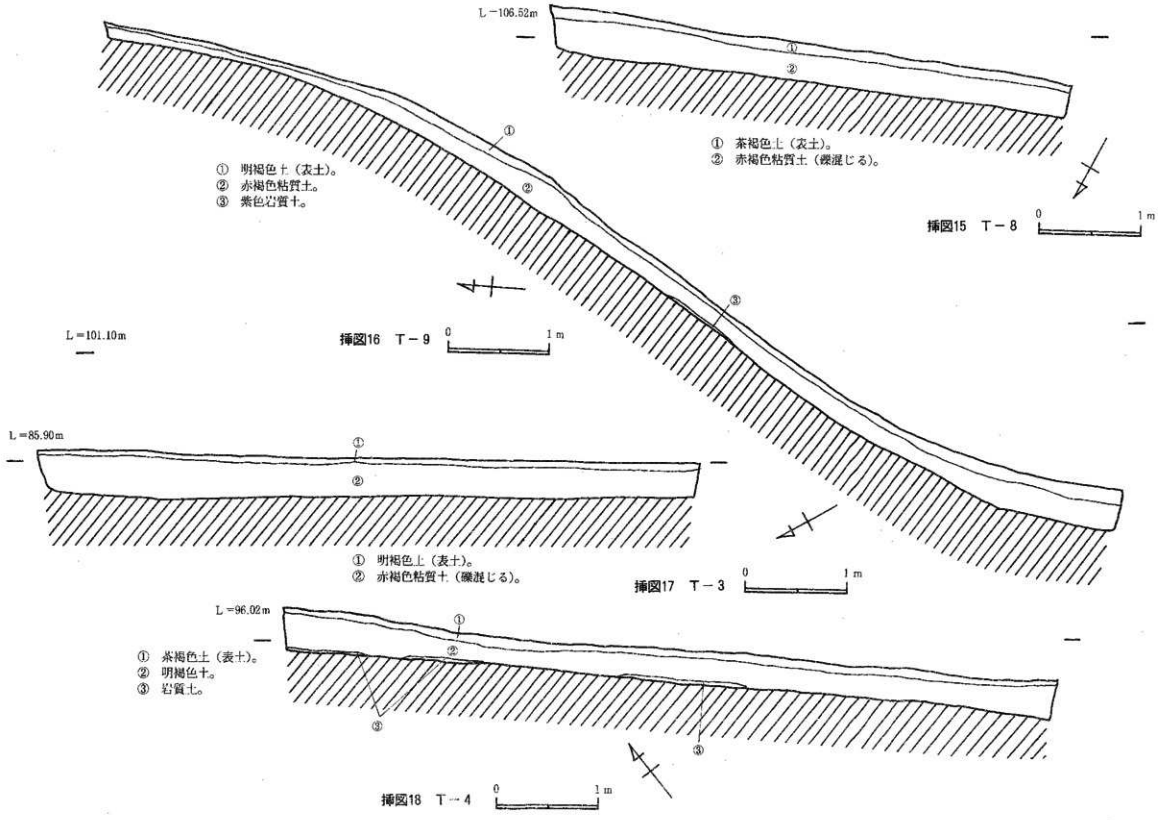
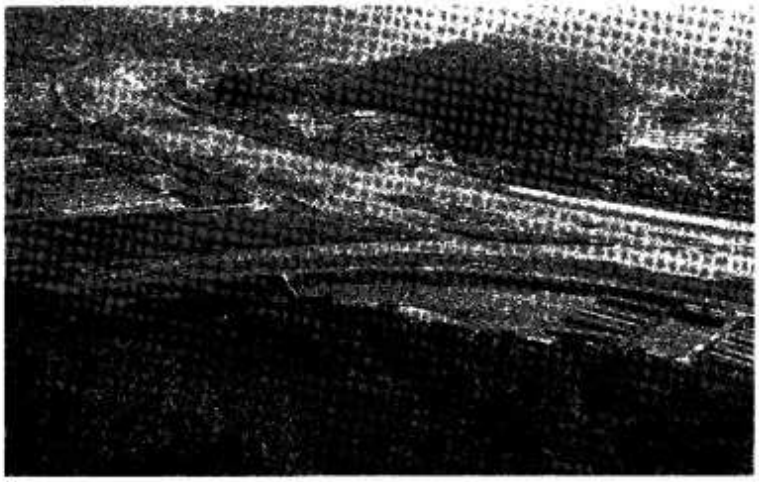

L－106.52m
①
②
① 茶褐色土（表土）。
② 赤褐色粘質土（礫混じる）。
挿図15 T－8
0
1 m
①
②
③
① 明褐色土（表土）。
② 赤褐色粘質土。
③ 紫色岩質土。
L＝101.10m
挿図16 T－9
0
1 m
L＝85.90m
①
②
① 明褐色土（表土）。
② 赤褐色粘質土（礫混じる）。
挿図17 T－3
0
1 m
L＝96.02m
①
②
③
① 茶褐色土（表土）。
② 明褐色土。
③ 岩質土。
挿図18 T－4
0
1 m

図　　版

（Ⅰ～Ⅶ）

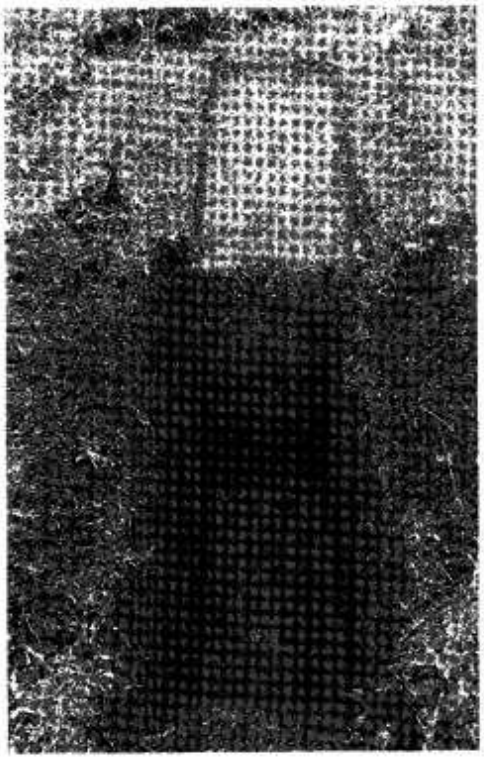
図版 I



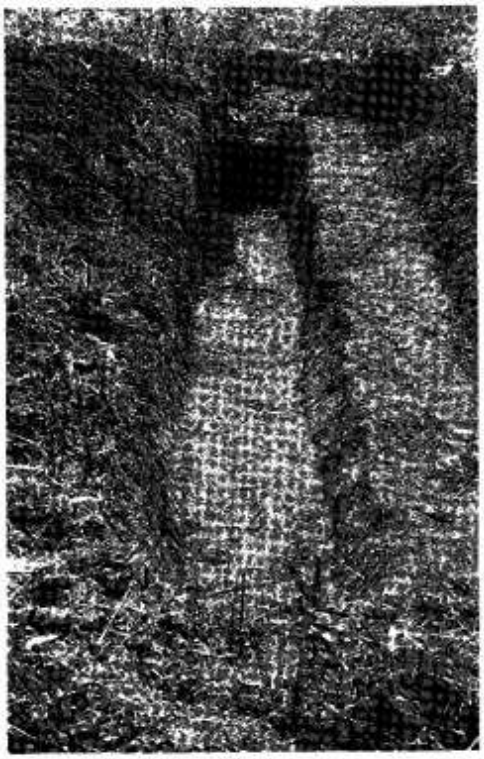
丸山城跡全景（北東から）

丸山城跡周辺風景（頂部から）

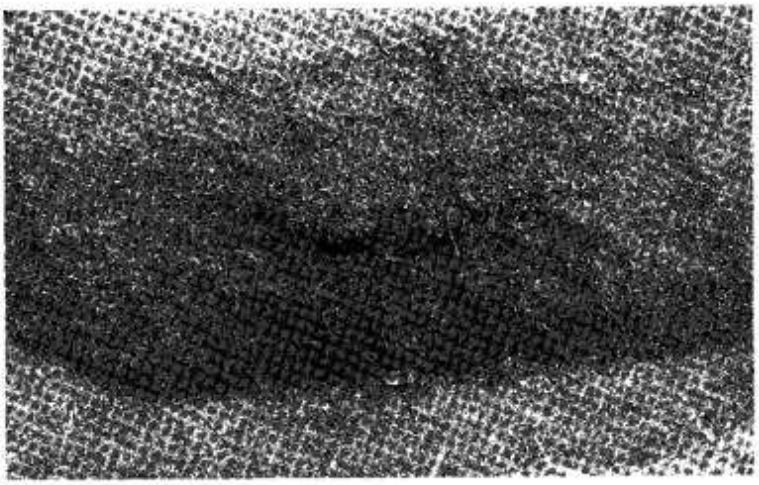
図版Ⅱ



Ｔ－２（北東から）

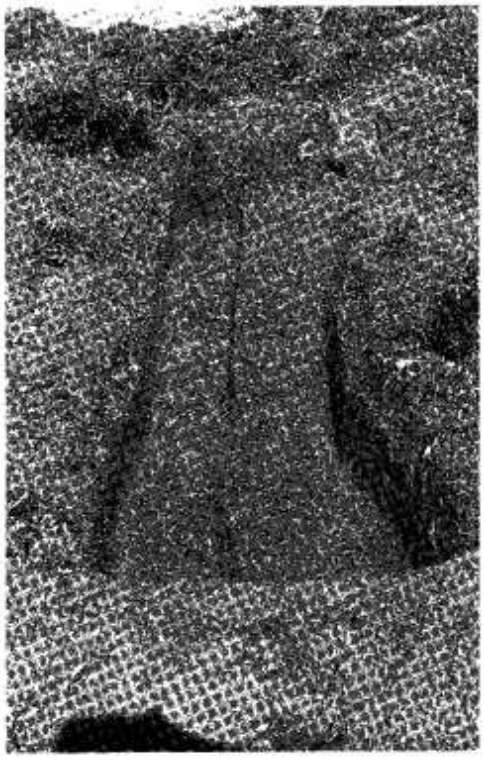


Ｔ－５（北東から）



Ｔ－２　土層（北西から）

T－7（北西から）



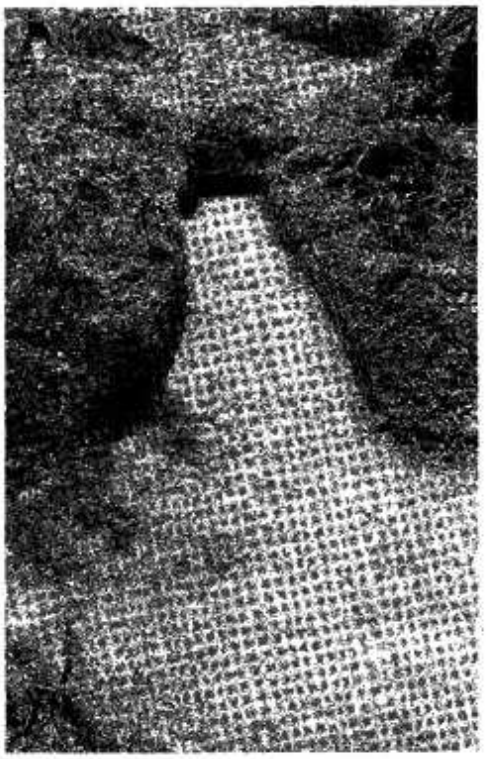
T－9（南から）

T－17（東から）

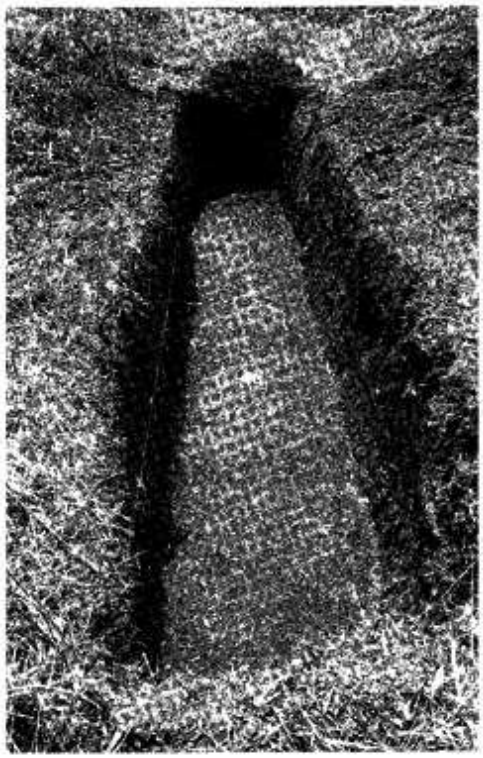
図版IV

山手森谷上分遺跡全景（南西から）

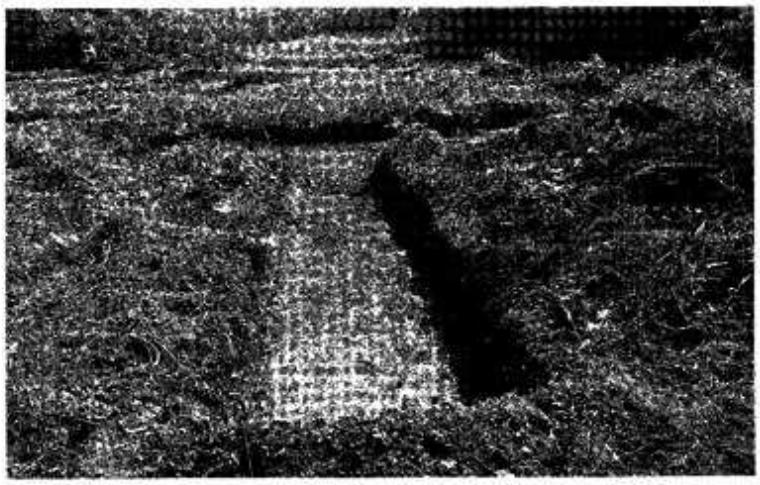
ごみ焼却場周辺風景（北東から）



T－2（北西から）



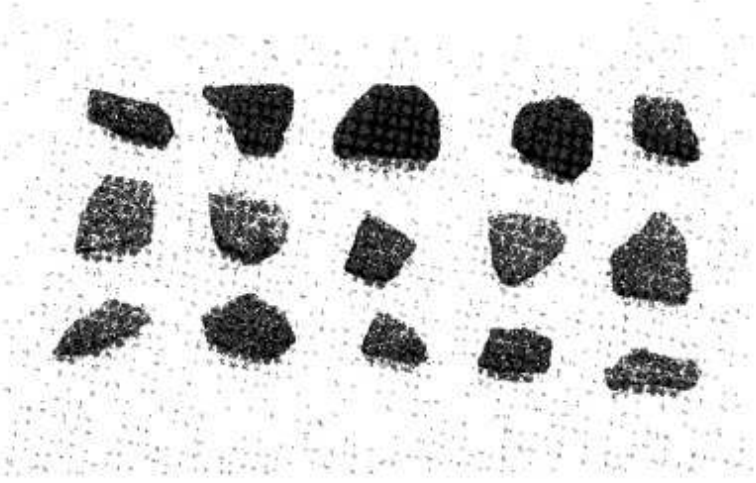
T－4（北西から）



T－14（南西から）

T－7（北東から）

T－17（北から）



出土遺物

山手所在遺跡全景（北から）

Ｔ－４（北西から）

Ｔ－７（北西から）

河原町内遺跡分布調査報告書

発行日　１９９３年３月

発行者　河原町教育委員会
〒680－12
鳥取県八頭郡河原町大字渡一木277－1
ＴＥＬ（0858）85－0011

印　刷　谷岡印刷
〒680　鳥取市元町126
ＴＥＬ（0857）26－2001